

FANTIC RACING

ファンティック・レーシング・ニュース
2025年9月15日

サンマリノ GP : バルタスが優勝目前の 2 位、カネットは 7 位でゴール

ファンティック・レーシング・リノ=ソネゴは好成績を収め、バルタスが今季 6 度目となる表彰台に上がり、カネットは重要なポイントを獲得した。



MotoGP 第 16 戦サンマリノ GP が、9 月 12 日から 14 日にかけて、イタリアのミサノ・ワールド・サーキット・マルコ・シモンチェリで行われ、Moto2 クラスに参戦するファンティック・レーシング・リノ=ソネゴのバリー=バルタスは 2 位表彰台を獲得した。アロン=カネットは 7 位フィニッシュを果たしている。

走行初日となる金曜日、バルタスはすぐに速さを発揮した。一方のカネットは前戦カタルーニャ GP 決勝レースでの転倒の影響が残っている状態だった。しかし、カネットは予選 1 (Q1) を突破すると、予選 2 (Q2) で 1 分 34 秒 362 を記録して 5 番手を獲得。バルタスも 1 分 34 秒 347 をマークして 4 番手を獲得し、ファンティック・レーシング・リノ=ソネゴのライダーは二人そろって 2 列目から決勝レースをスタートすることになった。

この予選 2 (Q2) はタイム差が非常に小さく、ポールポジション (予選 1 番手) のダニエル=オルガドから 5 番手のカネットまでのタイム差が、わずか 0.15 秒という接戦だった。

土曜日の夜には雨が降ったが、日曜日の決勝レース (22 周) は快晴のもと、ドライコンディションで行われた。4 番手スタートのバルタスは好スタートを切ったものの、1 周目序盤の混戦で 6 番手に後退する。

しかし、バルタスはここから追い上げを開始する。4 周目には 5 番手にポジションを上げ、レース中盤にはチャンピオンシップのランキングトップであるマヌエル=ゴンザレスとランキング 2 番手のディオゴ=モレイラをかわして 3 番手に浮上した。

さらに、バルタスはオルガドとの 2 番手争いを展開すると、19 周目にオルガドをかわし、ついに 2 番手にポジションを上げている。この時点で、トップを走っていたチェレスティーノ=ヴィエッティは 2 番手に対し 2 秒以上のギャップを築いていたが、バルタスは最後までヴィエッティとの差を詰め続けた。

特にバルタスの終盤のペースは素晴らしく、ヴィエッティが 1 分 35 秒後半から 36 秒前半のラップタイムだったのに対し、バルタスはレース序盤からほとんど変わらない 1 分 35 秒前半のタイムを刻んでいた。

ミサノ・ワールド・サーキット・マルコ・シモンチェリは路面のグリップがよいため、タイヤのグリップが落ちにくい。とはいえ、バルタスの一貫したペースは群を抜いていた。これは、彼が金曜日からタイヤのマネジメントにフォーカスして取り組んできた成果である。

惜しくもヴィエッティには届かなかったが、バルタスはわずか 0.75 秒差の 2 位でフィニッシュラインを通過した。バルタスにとって、これが今季 5 度目の 2 位であり、6 度目の表彰台獲得となった。

一方のカネットはレース序盤に苦しみ、1 周目を 9 番手で戻ってきた。そこからマシンのフィーリングを取り戻し、ポジションを回復して 7 位でゴールした。期待通りの結果というわけにはいかなかったが、チャンピオン争いに踏みとどまり、ランキングトップのゴンザレスとの差を 39 ポイントとした。

第 17 戦日本 GP は、9 月 26 日から 28 日にかけて、栃木県のモビリティリゾートもてぎで行われる。

バリー=バルタス：

表彰台に戻ってこられてとてもうれしいよ。特にこの 2 戦は厳しいレースが続いていたからね。マシンのいいフィーリングを取り戻すことができたし、レースでこれだけ強さを発揮できた。最高の気分だ。たぶん、僕の Moto2 のキャリアの中でも最も速く走れたレースの一つだったと思う。優勝にも本当に近かったしね。

1 周目に押し出されて少しポジションを落としてしまい、挽回しなければならなかったけど、最終的に、アジアラ

ウンドに向かう前に 20 ポイントを獲得できたことにはとても満足しているよ。

チームがいつも素晴らしい仕事をしてくれることに大きな感謝を伝えたい。この結果を彼らに捧げたいと思う。

今週末のカギは、金曜日から取り組んできたことだった。1 週のタイムアタックではなくて、日曜日に向けてタイヤをマネジメントしながらレースペースだけに集中したんだ。そしてそれが実を結んだ。レース中盤に他のライダーがペースを落とすなかで、すごく強くて安定したリズムを維持できた。本当に優勝に近かったけれど、この 2 位にはとても満足しているんだ。これからアジアに向けて、毎戦しっかり戦っていくし、きっとまた勝つチャンスがあると思っているよ。



アロン=カネット :

今週末は少し厳しかったね。でも、チームとともに取り組んだことには満足しているよ。改善すべき重要な部分を特定できたんだ。重点的に何に取り組むべきかが明確になったから、次のレースではもっとよくなると確信しているよ。



ロベルト=ロカテリ (チームマネージャー) :

バリーのレースには非常に満足しています。彼は成熟した走りとスピード、そして素晴らしい決意を示し、チーム全体の注力、努力の価値を示してくれました。この2位は、我々に自信を与えてくれましたし、ピット内にいるすべてのスタッフの努力に報いるものだったと思います。

アロンの結果は前向きにとらえるべきでしょう。厳しい状況にもかかわらず、重要なポイントを持ち帰り、何よりもマシンのフィーリングに関して改善の兆しを感じさせてくれました。すぐにまた、彼が本来のポジションを争う姿を見られると確信していますよ。

■ Moto2 クラス チャンピオンシップ ランキング

	ライダー	チーム	バイク	ポイント数	トップとの差
1	M.ゴンザレス	LIQUI MOLY Dynavolt Intact GP	KALEX	227	
2	D.モレイラ	Italtrans Racing Team	KALEX	188	39
3	A.カネット	Fantic Racing Lino Sonego	KALEX	188	39
4	B.バルタス	Fantic Racing Lino Sonego	KALEX	173	54

■ライダープロフィール

アロン=カネット

1999年9月30日生まれのスペイン人。2016年にロードレース世界選手権 Moto3 クラスデビューを果たし、2019年にはランキング2位を獲得。2020年、Moto2 クラスにステップアップ。2024年にファンティック・レーシングに移籍し、ポルトガル GP で初優勝を飾った。このシーズンは小椋藍に次ぐランキング2位を獲得。2025年、チャンピオン獲得を目指す。

目下、最大の目標は「世界チャンピオンになること」。幼少期は父親からカートを与えられたが、「バイクのほうがいい」と言って乗り始めた。その当時からゼッケン「44」を使用している。

バリ=バルタス

2004年5月3日生まれのベルギー人。2020年に Moto3 クラスデビュー。2022年に Moto2 クラスにステップアップした。初表彰台は2024年のカタール GP。この年、オートレース宇部レーシング・チームから鈴鹿8耐にも参戦している。2025年、ファンティック・レーシングに移籍し、表彰台の常連になりつつある。なお、9月13日に2026年もファンティック・レーシングから Moto2 クラスに参戦することが発表された。

バルタスの父親がバリ=シーン（伝説的イギリス人 WGP チャンピオン）の大ファンで、そのためにバルタスは「バリ」と名付けられた。ゼッケンの「7」もこれに由来するもの。

